まんまるお月様がお出迎え

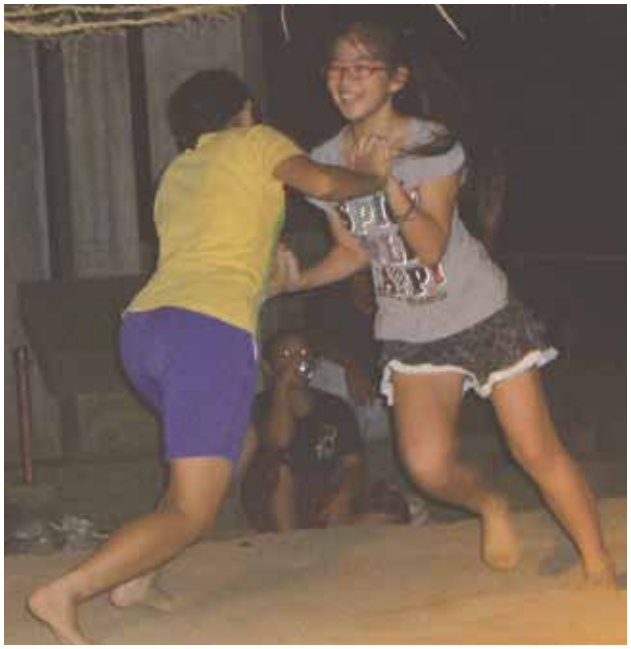
9月19日、町内の各集落で子どもたちが十五夜を楽しみました。

町内では十五夜に子どもたちが家々を回り、月見に飾られたおはぎやお菓子などを貰うのが習わし。子どもたちは夕方から袋を片手に家々を回りました。唐隈集落などでは綱打ちが行われ、子どもたちが綱引きや相撲を取って楽しみました。

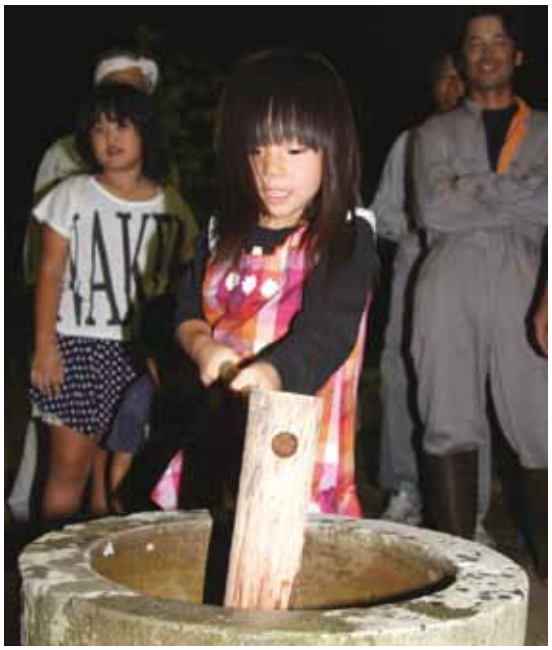
山中集落（上原健造館長）では15年ほど前から、十五夜の晩に子どもたちに昔ながらの餅つきを教えています。公民館の前には、きねと臼が用意され、集まった40人ほどの子どもたちが餅つきに挑戦しました。中には「きねが重い」と、ふらつく子どもに保護者が手を添え親子で楽しんでいました。

上原館長は「最近は餅つきも機械が主流。子どもたちが昔ながらの餅つきを経験することが少なくなった。これからも続けたい」と話し、餅つきに挑戦した川添堅斗君（小3）は「きねで餅をつくのがおもしろかった。去年より上手に美味しくできた」と満足の様子でした。

↑掛け声を合わせて、力いっぱい綱を引く子どもたち（唐隈集落）



↑小学校内の土俵で相撲を取る子どもたち（城川内集落）



↑美味しいお餅がつけるかな（山中集落）